

馬主だより

第61号

平成25年12月20日

発行 (一社)ばんえい競馬

馬主協会事務局

☆薄暮開催売上げ好調を維持 柔軟な対応が功を奏する！！

▼今年もいよいよ年の瀬が押し迫ってまいりました。11月23日から始まったばんえい競馬薄暮開催も発売額が順調に伸びています。12月16日までの2開催12日間の売上げは約8億8千万円で前年同期と比べ22.0%増となりました。そのうちインターネットの発売額が、同40.8%増の4億5千万円と大幅に伸ばし、薄暮開催の効果が顕著に表れています。主催者は、「中央競馬や他の地方競馬がやっていない時間帯に、ネットで購入する競馬ファンが多かったのでは」と分析しており、狙いどおり柔軟で素早い判断が功を奏する結果となりました。今後、年末年始開催はデイ開催となりますが、それ以降3月中旬までは午後6時40分を最終レースに薄暮開催を継続の予定。▼現在、帯広市議会では来年度のばんえい競馬の運営について、帯広市が経営責任を果たすため一部業務の直営化や委託方式の変更(委託料固定化)など赤字を出さない運営のあり方について検討中。▼市が運営する事業の責任を果たすのは至極当然。収支均衡以上の経営を目指すのも当たり前の姿。一方で市民にとっての財産(ばんえい競馬)を保護することが、どう影響を与えているのかを市民へ分かり易く示すのも行政の責務です。重要なのは様々な幅広い視点から物事の道理と価値を捉え、そして客観的基準で真理に基づき議論を尽くすことだと思います。▼来年の干支は「午」です。是非この厳しい障害を関係者が一つとなりウマく乗り越え、ばん馬が飛躍する年として縁起が良いスタートを切りたいものです！！

平成25年度 ばんえい競馬 発売成績(累計)

開催107日間

CB 事業推進課投票グループ資料提供

平成25年12月16日終了時

区 分	発 売 金 額							
	平成25年度			平成24年度		対 比		
	日数	発売額	予算額	日数	発売額	予算	前年	
本 場	107	1,079,976,800	1,015,310,200	107	1,160,158,700	106.37	93.09	
直営場外	旭川北彩都	107	670,323,700	532,947,100	107	691,101,500	125.78	96.99
	ミトスポット北見	107	326,807,700	272,177,600	107	341,925,000	120.07	95.58
	ハロンス岩見沢	107	214,795,900	198,192,000	107	272,780,500	108.38	78.74
	ハロンス釧路	107	91,802,000	89,316,600	107	108,467,200	102.78	84.64
	ハロンス名寄	107	107,694,200	102,510,200	107	130,103,800	105.06	82.78
	アプスポット網走	107	105,578,600	88,130,000	107	98,130,400	119.80	107.59
	琴似駅前	107	79,011,700	83,352,800	9	4,408,400	94.79	1792.3
	イルムふかがわ	48	47,980,000	42,819,100	—	—	112.05	—
電投	オッズパーク	107	2,596,375,000	2,302,864,000	107	2,195,381,300	112.75	118.27
	OP(七重勝)	107	33,422,100	96,108,000	3	76,500	62.18	43689.0
	OP(五重勝)	107	26,335,700		107	70,597,300		37.30
	競馬モル	107	1,422,596,700	1,392,091,300	107	1,051,516,900	102.19	135.29
広域場間場外	—	1,025,390,300	857,492,500	—	1,096,206,400	119.58	93.54	
場外・電投計	—	6,748,113,600	6,058,001,200	—	6,060,695,200	111.39	111.34	
合 計	107	7,828,090,400	7,073,311,400	107	7,220,853,900	110.67	108.41	
1日平均		73,159,723	66,105,714		67,484,616	110.67	108.41	

平成25年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第18回6日目まで107日間)

平成24年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第18回6日目まで107日間)

会議等の様子

○ 監事中間監査を実施！！

～平成 25 年度上半期における理事の職務及び会務の状況等を監査～

平成 25 年 10 月 26 日(土)午後 2 時 30 分から当協会会議室において、平成 25 年 4 月から 9 月までの上半期における理事の職務の執行状況、協会の業務並びに財産及び会計の状況について、宝田、堂場両監事により監査が行なわれました。

当日は、執行役員を代表して赤堀代表理事会長、長津専務理事立会の下、事業報告書、財務諸表等について説明。その後、監事から関係資料の内容について、理事及び事務局へ質問等聞き取り調査が行われました。

監査の結果、改善点などの指摘事項はありませんが、今後とも定款、諸規程等に基づき会の適正な運営に努め、下半期においても、しっかりと予算統制しながら組織全体として同一の認識の下に経営健全化の推進を図るよう意見がありました。

【監査資料】

資料1 平成 25 年度事業実施報告

資料2 平成 25 年 4 月～9 月期決算報告書(財務諸表等)

・貸借対照表・正味財産増減計算書・予算対比正味財産増減計算書・収支計算書
・予算推移付収支予算管理月報・財産目録・貸借対照表内訳表・正味財産増減計算書内訳表・収支計算書内訳表・特定資産の増減及びその残高・固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高・平成 25 年度流通促進事業収支、純益総括表

資料3 参考資料

・各事業に関連する費用額の配賦計算書(給料手当、給料手当以外の経費)・平成 25 年度機構図・平成 25 年度ばんえい競馬発売成績・平成 25 年度報償費支給状況等

○ 平成25年度第4回執行役員会を開催！！

～賞金等振込手数料の今後のあり方について検討される～

平成 25 年 12 月 15 日(日)午前 11 時から当協会会議室において、平成 25 年度第 4 回執行役員会を開催。競走馬弔慰金の査定及び第 3 回理事会開催に先立ち、議案等について事前に打ち合わせをいたしました。

また、賞金等の振込手数料の今後のあり方について審議。これまで当協会が全額負担している振込手数料について、以前より理事会の懸案事項として、「当協会の財政基盤が悪化する中で、振込手数料の軽減を含め受益者負担に見直しする時期に来ている。」との見解から、今回その方法について検討いたしました。

具体的には、新年度に向けて、現在、北海道銀行旭川支店にある当協会の賞金管理口座を同帯広支店に移管し、移管後の振込手数料の優遇措置等について協議する。

その一方で当協会の負担軽減のため、当面会員各位には賞金振替口座を道銀帯広支店の口座にさせていただくようご協力をお願いすることとし、いずれは受益者負担も視野に入れながら、段階的に進めていく方向性を確認しました。

【執行役員会議事】

(1)競走馬弔慰金の査定について

(2)第 3 回理事会議事について

(3)賞金振込手数料受益者負担に伴う北海道銀行旭川支店(振込手数料無料)の新規口座開設の郵送手続きについて

(4)その他

① 年始イベント企画書(案)

【馬弔慰金支給対象馬】 2頭 1,100,000円

内 訳		(単位;円)		
馬 名	年齢	馬 主	給付別	馬弔慰金
ミチノクタイショウ	2	小野重治	業務中	600,000
ライデンヒーロー	9	田中猪之助	業務中	500,000

○ 平成25年度第3回理事会開催 報償費支給基準等審議！！

平成25年12月15日(日)午後1時30分から当協会会議室において、平成25年度第3回理事会を開催いたしました。

現在、報償費の改定措置により第19回開催(12月30日)までの出走手当の支給基準額が1出走目3千円の増額となっておりますが、年明け第20回開催以降の当該支給基準額について帯広市と改めて協議するにあたり、事前に理事者間の意思統一を図りました。

また、今年度のブロック懇談会等の日程調整及び次年度帯広市に陳情するばんえい競馬に関する諸事項について様々な意見が出されました。

【第3回理事会議事】

- 日程1 報告第1号 監事中間監査の報告
- 報告第2号 競走馬弔慰金の給付額の決定について
- 報告第3号 内国産農用種雄馬購買の予備選抜結果
- 報告第4号 正会員の入会申込みについて
- 日程2 報告第5号 発売成績及び報償費の支給状況等について
- 協議案第1号 今年度出走手当の支給基準額の要請について
- 日程3 協議案第2号 平成25年度ブロック懇談会の日程調整及び懇談事項について
- 日程4 協議案第3号 次年度ばんえい競馬に関する意見、要望、提言等について
- 日程5 そ の 他 ① 代表理事会長の動向について(9月～12月)
- ② JRA ジョッキーDAY イベント実施について

【正会員新規入会者】

会員番号	入会者氏名	馬主登録番号	ブロック名
25-10	(株)三上建設	法13-1196	道南ブロック
25-11	濱田 誠	北13-19	道央ブロック

○ 帯広市意見交換会開催！！

～年明け後の出走手当 当面現行3万4千円維持の回答を得る～

平成25年12月15日(日)午後3時30分から当協会会議室において、帯広市から今年度第20回開催以降の報償費の考え方について説明がありました。

田中室長から「年明け以降の薄暮開催でどれだけの発売額が見込めるか、加えて冬期間にかけてはコストが膨らみ不採算の日が続くことが予想されるなどの不安が拭いきれず、また、荒天や事故等の不測の事態が起これば、状況が一転するという不確定要素もあることから、これらに備え、改定した出走手当(第13回開催～第19回開催:1出走目3千円増額)について年明け第20回開催からは一旦元に戻させてほしい。そして2月の中旬くらいまで、発売額の推移を見極めその時点で改めて増額も検討させてほしい。」という考えを示しました。

当協会としては、「ばんえい競馬の発売額が伸びている中において、下げられるという話は

承服できない。今後の不安材料は理解するが、総合的にマイナスとなる何か他の要因があるのであれば、明確に説明をしていただかなければ到底理解できるものではない。また、ばんえい競馬存続の根幹である競走馬が今年度激減し、このまま今の状況が続けば競馬開催にも大きく影響する懸念がある。」など馬主の窮状を訴え、この時点での減額は、馬主に与える影響が大きいことから、何とか現行の基準額を維持していただくよう強く求めた。

これに対し帯広市は、マイナス要因として、ばんえい競馬の発売額はこれまで順調に推移している一方で今年6月から開始したJRA中央競馬の勝馬投票券の発売額が当初見込んでいた額を大幅に下回っているため、ばんえい競馬の発売額だけでは一見好調に見えても、全体では、それ程ではない旨説明がありました。

最終的には、帯広市も馬主の現況について一定の理解を示し、お正月開催から当面の間については、現行の出走手当34,000円(1出走目)を変えずに継続して支給していただけるといことになりました。但し、何らかの要因により売上げ減少などの影響が出た場合には、年度途中で元に戻すことについてお互いに了解し確認しました。

注：年明け以降の出走手当の支給基準額については、馬齢及び格付に関係なく1出走目一律34,000円となります。別紙通知「報償費の据置について」をご参照ください。

情報・ご案内

○ 平成25年度の定期馬登録検査日程決まる！！

～3月12(水)・13(木)及び3月26(水)、27日(木)～

新馬登録申請については、先にご案内のとおりですが、この度、地方競馬全国協会から当該申請をした馬について、ばんえい馬登録検査の日程が次のとおり決定された旨通知がありましたのでご案内いたします。

なお、来年4月予定の第1回能力検査を受検するには、当該定期馬登録検査(下記日程)を受けておく必要があります。

また、第2回能力検査の一週間前及び能力検査当日に登録検査を行なう予定です。4月以降の馬登録検査日程については、後日お知らせいたします。

検査日時等お間違えのないよう、預託予定の調教師と事前にご確認ください。

【定期馬登録検査日程及び場所】

検査日時	検査場所
平成26年3月12日(水)9:00～ 平成26年3月13日(木)9:00～	帯広競馬場 装あん所
平成26年3月26日(水)9:00～ 平成26年3月27日(木)9:00～	

【馬登録検査時の注意事項】

1. 検査時に特徴の違う馬が発見されたら、その馬の経路が分かるようにしておくこと。
2. 馬に轡(くつわ)を装着して受検すること。
3. 馬体の汚れを落として受検すること。

○「JRAジョッキーDAY2013」今年も開催！！

～初参加8人を含む10人のトップジョッキーが帯広競馬場へ集結～

11月18日(月)「JRAジョッキーDAY2013」が帯広競馬場で開催されました。当該イベントは、JRA日本中央競馬会所属の騎手によるばんえい競馬応援イベントとして2007年からスタートして今年で7回目となります。当協会がJRA騎手を招聘し、エキシビジョンレースや協賛競走、トークショーなど、ばんえい競馬関係者が一丸となって実施する毎年恒例のイベントの一つとなりました。

この三年は、8月のJRA札幌競馬開催に併せて当該イベントを行っておりましたが、今年は札幌競馬場の改修工事により、JRAの札幌シリーズが開催されないことから、イベント実施が危ぶまれておりました。

そこで、第1回から参加している勝浦騎手に何とか来年度以降にも繋げたいとの思いで、人数が10名揃わなくても構わないので、是非、今年もご来場をお願いしたい旨相談していたところ、勝浦騎手の呼びかけに皆様快く応じていただき、松岡騎手と新たに8人の新メンバーを迎え実現できる運びとなりました。

例年より時期が遅く、ご来場いただいた騎手には、今時期は秋の競馬シーズン中で大変お忙しい合間をぬってのご参加、誠に頭の下がる思いです。有難うございました。

【来場ジョッキー（敬称略、五十音順）】

氏名	通算成績 2013年10月15日現在 JRA主催の成績のみ	2012年度JRAリーディング および過去の主な勝ち鞍
内田 博幸【初出場】 (うちだ ひろゆき)	5,710戦 766勝 (重賞 35勝)	2012年度JRAリーディング 4位 有馬記念〔ゴールドシップ〕 アメリカJCC〔トーセンジョーダン〕など
江田 照男【初出場】 (えだ てるお)	12,830戦 786勝 (重賞 28勝)	2012年度JRAリーディング 57位 日経賞〔ネコパンチ〕 中山記念〔トーセンクラウン〕など
勝浦 正樹【7回目】 (かつうら まさき)	10,476戦 685勝 (重賞 13勝)	2012年度JRAリーディング 30位 朝日杯フューチュリティS〔ゴスホークケン〕 富士S〔キネティクス〕など
北村 宏司【初出場】 (きたむら ひろし)	10,701戦 957勝 (重賞 21勝)	2012年度JRAリーディング 8位 ステイヤーズS〔トウカイトリック〕 フリーズレビュー〔フレンチカクタス〕など
後藤 浩輝【初出場】 (ごとう ひろき)	12,272戦 1,380勝 (重賞 52勝)	2012年度JRAリーディング 40位 マーチS〔サイレントメロディ〕 優駿牝馬〔エリノコート〕など
田辺 裕信【初出場】 (たなべ ひろのぶ)	5,951戦 368勝 (重賞 4勝)	2012年度JRAリーディング 21位 セントウルS〔エーシンヴァーゴウ〕 富士S〔エイシニアポロン〕など
戸崎 圭太【初出場】 (とさき けいた)	1,656戦 172勝 (重賞 6勝)	2012年度JRAリーディング 51位 ラジオNIKKEI賞〔ファイナルフォーム〕 安田記念〔リアルインパクト〕など
松岡 正海【5回目】 (まつおか まさみ)	7,242戦 616勝 (重賞 25勝)	2012年度JRAリーディング 18位 府中牝馬S〔マイネイサベル〕 中山金杯〔コスモファントム〕など
丸田 恭介【初出場】 (まるた きょうすけ)	3,807戦 244勝 (重賞 1勝)	2012年度JRAリーディング 23位 福島記念〔ダンスインザモア〕
丸山 元気【初出場】 (まるやま げんき)	3,175戦 242勝 (重賞 2勝)	2012年度JRAリーディング 36位 新潟大賞典〔セイクリッドバレー〕

○“市が運営リスクを負う仕組みに見直すことを示唆”！！

～新たな中長期収支計画策定の中 直営業務内容も見直し～

ばんえい競馬の経営安定化に向けた業務の見直しを進めている帯広市は、11月19日に開催された市議会産業経済委員会において、来年度以降のばんえい競馬の運営について、「収支均衡を前提に主催者の帯広市がリスクを負担し、できる限りの再委託を避けたい。」と説明。本迫副市長からは、「存続に一定の業務委託は必要だが、受託者がその能力の範囲で受託できる仕組みをつくらなければ将来に向け経営が厳しくなる。」「ばんえい競馬に新たな投資をするくらいの市民合意をいただけることに期待している。」と述べ、主催者である帯広市が運営リスクを負う必要性に言及、仕組みの見直しを検討していることを明らかにしました。

また、今後の消費増税や電気料値上げなど諸情勢の変化も勘案し、新たな中長期収支計画の見通しを策定する中で、現在、受託企業による再委託で支払う消費税を節減するなど存続を安定化させる狙いで、現在民間企業に委託している馬場や厩舎管理などの委託業務の一部についても、来年度から帯広市が直営で実施することも含め検討していることも明らかとなりました。

○ ばんえい競馬委託業務方式を変更 委託料固定制導入！！

～経営安定化のため委託会社の赤字リスク軽減不可欠～

ばんえい競馬は現在、帯広市が民間の(株)コンピューター・ビジネス(旭川)へ業務を委託しております。委託業務の範囲については以前の企業よりも圧縮した形とはなりましたが、依然、委託料は「変動制」のまま運営赤字を受託企業が負うという仕組みについては今日まで継承されてきました。

そのような中で、今年9月下旬に委託企業の(株)コンピューター・ビジネスから帯広市に対して「現行の委託方式を見直さなければ来年度の受託は難しい」との見解を示していました。

このこともあり、帯広市は、ばんえい競馬全体の運営リスクを委託企業が負う現在の仕組みでは、今後も経営安定化が難しいとの判断を示し、受託企業のリスク軽減のため、来年度から業務委託方式を変更し、ばんえい競馬の収支に関わらず一定の委託料を支払う「固定制」を導入する方向で最終調整に入っている。

また、帯広市は一部業務を直営化する方針も示しており、来年度以降、収支均衡を前提に運営のリスクは帯広市が負う方式に変更するため、今後市議会でも議論が交わされることになる。

○ 全道祭典ばんば1歳馬決勝大会 ホクショウキズナ優勝！！

道内の草ばんば等で活躍している1歳馬の全道チャンピオンを決める「全道祭典ばんば1歳馬決勝大会」(主催:北海道鞍用馬振興対策協議会)が11月23日(土)帯広競馬場で開催されました。

同大会は例年、雄、雌各10頭に分かれ2日間で開催されておりましたが、今年度は帯広競馬場内でウイルス性疾患が発症したこともあり、一ヵ月ほど遅い時期に順延し開催する運びとなりました。また、そのような影響もあり最終的に出場申込馬が10頭にとどまったことから、雄雌混合による1レースを実施することとなりました。

レースは当日になり1頭が欠場し雄6頭(積載重量350キログラム)雌3頭(同330キログラム)の計9頭混合で行われ、道南地区選抜(馬主協会枠)のホクショウキズナ(所有者:井内昭夫、生産者:大竹武)が他馬を寄せ付けず圧勝で優勝。見事、1歳馬の頂点に輝きました。来年からの活躍が楽しみです！！おめでとうございます。

【平成 25 年度 全道祭典ばんば 1 歳馬決勝大会成績表】

着順	枠番	馬名	性	積載重量	所有者	生産者	騎手	馬体重	タイム
1	7	ホクショウキズナ	雄	350	井内 昭夫	大竹 武	島津 信	800	1:01:2
2	5	ワタシサ克蘭ボ	雌	330	松村 竜幸	松村 竜幸	寄木 貴広	750	1:15:0
3	2	ホクショウモモ	雌	330	井内 昭夫	長谷川義晃	小坂 一友	820	1:31:3
4	8	キタノアヤヒメ	雌	330	山崎 征英	久保 輝於	田辺 祐勝	700	1:47:1
5	6	ゴールドステー	雄	350	安藤 和治	岩渕 文雄	安藤 和治	700	2:17:6
6	1	キタノイチタロー	雄	350	尾屋 保博	尾屋 保博	平井 俊幸	700	2:19:3
7	10	ダイリン	雄	350	広部 武志	高橋 鐵雄	沢井 節夫	760	2:42:0
8	4	キタフジ	雄	350	杉岡 正美	藤田 千代	杉岡 正美	700	3:19:6
9	9	ブルーファイター	雄	350	加藤 勇	加藤 勇	加藤 勇	720	3:23:1
一	3	オレワリヨウシダ	雄	350	佐藤 幸一	藤巻 厚	—	750	出走取消

○ **米沢市長 市議会ではんば競馬への思いを説明 !!**
～競馬事業による赤字に税投入しないことを改めて強調～

平成 25 年 12 月 10 日開催された平成 25 年度帯広市議会定例会の一般質問で、熊本喬議員(会派:市政会)が市長のばんば競馬に対する思いについて質問。

米沢市長から「ばんば競馬とはちむらとの相乗効果をはじめ雑誌やメディアに多く取り上げられるなど、今や十勝・帯広の魅力を発信する貴重な観光資源になっています。

また、帯広畜産大学の試算によりますと、十勝・帯広に大きな経済波及効果をもたらすとされており、税収効果などによって地域経済に与える効果は極めて大きいものと捉えております。ばんば競馬を取り巻く環境は厳しい状況が続くことが見込まれておりますが、経営の安定化に向け鋭意取り組んでまいりたいと考えています。」とばんば競馬の必要性と存続への思いを述べられました。

一方で質問は帯広市の経営責任について言及。「先日の産経委員会において、運営ビジョンの一部見直しや経営責任と言われた趣旨について、お聞かせ願いたい。」との質問に、田中ばんば競馬振興室長は、「現在、20 社以上ある受託企業の一社が全ての競馬開催業務のリスクを負う仕組みは早急に見直すべき。また、現在の仕組みでは仮に全てのリスクを負っている受託企業が企業側の都合で撤退した場合には、主催者(帯広市)の意思とは関係なくばんば競馬が開催できなくなってしまう可能性もある。

更には 2 年前に策定した運営ビジョンにしても、消費税の増税、或いは競馬法が改正され払戻し率の弾力化が可能となるなど、ビジョン策定時に想定していなかった新たな要素もあることから、これらを加味してビジョンの一部を見直すため、現在、庁内関係各部で検討作業を行っており、その中で概ね 3 年程度の収支状況を見極めながらあくまでも収支均衡を見通せる事を前提として主催者である帯広市がばんば競馬開催の経営責任を果たせる仕組みなどについて協議を行っている。」との考えを改めて示しました。

これに対し熊本議員から、「赤字になったときに税金を投入するということなのかを確認させてください。」との質問に対しては、「あくまでも収支均衡以上を見通せることを前提に競馬開催による赤字に対する税の投入はまったく考えておりません。」と明言。更に事務委託の直営方式の考え方への質問に対しては、「収支均衡以上を前提とするばんば競馬会計におきまして、現在検討しておりますのは、来年 4 月からの消費税増税に伴うばんば競馬の運営コストへの

影響を最小限に止める方策として、委託先において再委託しているものについては、直接契約を結ぶことでコストを抑えることができるのではないかと、或いは、帯広市が直接業務に携わる方がコスト削減できるような業務があるのなら、どのようにすべきかを見直し検討することとなっているところであります。」という答弁がありました。

レース情報

○ 重賞競走の結果

月 日	重 賞 名	馬 名	馬 主	調教師
10月13日	第36回 ナナカマド賞	ホクショウメジャー	井内 昭夫	槻館 重人
10月27日	第34回 北見記念	ギンガリュウセイ	田中 春美	久田 守
11月 3日	第38回 ばんえい菊花賞	コウシュハウカイ	広瀬 豪	大友 栄人
11月10日	第38回 クインカップ	カネサマドカ	酒井 秀彰	松井 浩文
11月24日	第 4回 ドリームエイジカップ	トレジャーハンター	高橋 一二	金田 勇
12月 1日	第38回 ばんえいオークス	ナナノチカラ	赤麿 秀人	小北 栄一

優勝おめでとうございます！！

◆ 第36回ナナカマド賞（2歳オープン）

単勝7番人気のホクショウメジャーが勝利。今年初となる2歳重賞を見事に制しました。

馬場水分は3.0%でしたが、基礎重量570キロだけに各馬勢いよくスタート。オオゾラシンスケが軽快に先行し、ホクショウメジャー、ゴールデンフジ、ヒカルセンショウ、ハクタイホウが横一線で続く展開。中間点過ぎで各馬いったん脚を止めますが、先行勢は息を合わすかのように横一線で第2障害を迎えました。

じっくりためたのちに動いたのはオオゾラシンスケ。やや遅れて、他馬も一斉に仕掛けます。なかでも抜群の登坂を見せたのはゴールデンフジで、オオゾラシンスケも2番手で続きます。さらにハクタイホウ、ヒカルセンショウ、ホクショウマサル、ホクショウメジャーも勝負圏内で第2障害を突破しました。

しかし、ここから未知の負担重量が各馬に襲いかかります。残り30メートルを切ったあたりから各馬の脚が鈍りはじめ、先頭を行くゴールデンフジも残り10メートル付近で失速。ハクタイホウが先頭に躍り出ますが、残り5メートルで痛恨のストップ。ゴールデンフジが先頭を奪い返しますが、さらにジワジワと延びてきたのがホクショウメジャー。ゴール寸前でゴールデンフジを交わすと、そのまま先頭でゴールを果たしました。ゴールデンフジが2秒2差の2着で、立て直したハクタイホウがさらに0秒6差の3着。

ホクショウメジャーはこれまでA-1戦を1勝、幕別町産駒記念も制しているように世代では上位の力を示していましたが、特別の青雲賞が18秒9差の4着、前走で8着に敗れて

いたことから伏兵視されていました。ただ、ある程度の重量を積まれたなかで、しぶとく歩き続けた点は、今後に向けて大きな収穫となったことでしょう。さらなる活躍が期待できそうです。

◆ 第34回北見記念（3歳以上オープン）

単勝1番人気のギンガリュウセイが優勝。2011年からとなる、このレース3連覇を果たしました。

馬場水分は3.0%と標準的な馬場でスタート。高重量戦だけにペースは遅く、各馬横一線が進みます。中間点付近からシベチャタイガーが前に出て、ホリセンショウがこれに続く展開。ほとんど差なく、第2障害を迎えました。

じっくりとためたのち、最初に動いたのはホリセンショウ。インフィニティー、シベチャタイガーがこれに呼応するように動きます。その後も各馬が続きますが、これといった決め手を欠いて一進一退。この混戦状態に断を下したのは、やや遅れて仕掛けたギンガリュウセイ。ふた腰目で天板まで荷物を曳き上げて、障害を突破。ほぼ同時にシベチャタイガーもクリアし、並んだ状態で障害を下りていきました。だいぶ離れた3番手からインフィニティーが続き、アオルクサスが4番手でクリア。

しかし、前を行く2頭の脚いろは快調。特にギンガリュウセイは止まる気配をまったく見せず、シベチャタイガーも差を詰めることができません。結局、そのままの隊列でゴールを迎え、ギンガリュウセイが優勝。2秒6差でシベチャタイガー、さらに4秒差の3着にインフィニティーが入りました。

ギンガリュウセイはこれが重賞4勝目。多少取りこぼしが多い面がありますが、昨年のばんえい記念や、今年の旭川記念、ばんえいグランプリいずれも2着と、地力はやはりトップクラス。今後も仕掛けのタイミングがはまれば、さらにタイトルを積み重ねるに違いありません。

2着のシベチャタイガーはギンガリュウセイにうまくレースを運ばれましたが、持ち前の先行力は衰えておらず、今後も展開次第でチャンスがありそう。馬場が軽いような時には、引き続き好勝負が期待できそうです。

◆ 第38回ばんえい菊花賞（3歳オープン）

単勝1番人気のコウシュハウンカイが優勝。5度目の挑戦で、重賞初制覇を果たしました。

馬場水分は1.9%と、やや重めでしたが、各馬勢いよく第1障害を突破。足並みをそろえるように横一線が進み、一進一退を続けたまま第2障害を迎えました。

じっくりためたのちに動いたのはコウシュハクイーン。それを合図とするかのように、各馬一斉に登坂を開始します。なかでも抜群のかけを見せたのがクインフェスタとオレノココロで、この2頭が障害をクリア。ほぼ同時にコウシュハウンカイ、コウシュハクイーン、オホーツクノタカラ、セイコークインも突破し、6頭が入り乱れる形で末脚比べに入りました。

先頭はクインフェスタ、コウシュハウンカイ、オレノココロが文字通りの横一線。半馬身ほど遅れてセイコークインが続き、さらに半馬身差でコウシュハクイーン。しかし残り20メートル付近でコウシュハクイーンが足を止め、4頭による争いとなります。そして20メートル標識を越えたあたりでオレノココロが脱落。残り10メートルではクインフェスタが半馬身ほどリードします。そして残り5メートルを切って、完全に先頭はクインフェスタ。このまま逃げ切って、と思われたところ、ゴール線上、ソリの後端がまさに越えたか越えないか微妙なところで、まさかのストップ。ジャッジはなんと“未到達”。その間にセイコークインが横をすり抜けて先頭ゴール、と思われた瞬間に、こちらもストップ。そして、またしてもジャッジは未到達。きっちり越えたコウシュハウンカイが、激戦の末に栄冠をつかみ取りました。ジワジワと歩き続けたオレノココロが2着で入線。ゴール線上で止まったセイコークインとクインフェスタの牝馬2頭は、結局同

タイムで入線しましたが、わずかにセイコークインが先着して3着となりました。

コウシュハウカイはこれが悲願の重賞初制覇。イレネー記念では外へ逃げたりするような場面もありましたが、着実に成長を遂げ、一進一退の激しい攻防を勝ち抜きました。もともとナナカマド賞で2着したように、早くから世代屈指の実力を見せている同馬。いよいよ、その才能が開花しはじめたと言っていいでしょう。今後のさらなる活躍が期待されます。

オレノココロはばんえい大賞典に続く2着。ただ、これで12戦連続3着以内と抜群の安定感を見せており、今後も展開次第でタイトル奪取のチャンスがありそうです。

◆ 第38回クインカップ（4歳牝馬オープン）

単勝1番人気のカネサマドカが優勝。3度目の挑戦で重賞初制覇を果たしました。

馬場水分は3.1%と標準的な馬場でスタート。道中はカネサマドカ、ベニコマ、カツダイヤあたりがハイペースで馬群をリード。それでも各馬離れず、ほぼ一団で第2障害を迎えました。

息つく間もなくカツダイヤが仕掛け、ひと腰で荷物を天板まで曳き上げます。それを見て各馬も一斉に登坂を開始。なかではカネサマドカが上々のかかりを披露。先頭でクリアしたのはカツダイヤでしたが、カネサマドカが障害を越えると、下りを利用して一気に加速。そのままカツダイヤを捕らえて、ゴール前の平坦路に入りました。

こうなると勢いはカネサマドカ。そのままさらに加速すると、他馬はもう為すすべがありません。グイグイとリードを広げにかけ、残り10メートルではセーフティーリード。余裕の手応えのまま、悠々と先頭ゴールを果たしました。障害を3番手でクリアしたタカラハヤヒメが徐々に押し上げ2着で入線。4頭が入り乱れた3着争いはニシキウカイが先着しました。

近況、安定した力を見せていたカネサマドカが、人気通りの強さを発揮して勝利しました。しかし前述したとおり、今回は重賞初制覇であり、この圧勝ぶりには多少驚かされました。いかにも本格化してきた印象で、今後もさらなる活躍が期待できそうです。

◆ 第4回ドリームエイジカップ（3歳以上馬齢選抜）

単勝7番人気、6歳のトレジャーハンターが優勝。2011年のポプラ賞以来となる重賞2勝目を挙げました。

馬場水分は2.2%と若干重め。第1障害ではややバラつきましたが、その後は各馬横一線。フクドリ、トレジャーハンターあたりがペースを握る展開で第2障害を迎えました。

各馬じつくりためたのち、真っ先に動いたのはホクショウバトルとオイドン。これとほぼ同時に、ホクショウユウキとトレジャーハンターも仕掛けます。なかでも抜群の登坂を見せたのがトレジャーハンター。ひと腰ごとに荷物を曳き上げ、先頭で障害をクリアしました。1馬身半ほど遅れてホクショウユウキ、さらにオイドンも突破。以下は離れて、勝負のゆくえはこの3頭に絞られました。

3番手のオイドンが前との差を詰めにかかりますが、先行した2頭も脚いろは良好。反対にオイドンが残り20メートル付近でストップしてしまいます。ところが先頭のトレジャーハンターもゴール寸前で止まってしまい、ホクショウユウキが急襲する手に汗握る展開に。しかし結局は、トレジャーハンターが立て直して1着入線。1秒差でホクショウユウキが2着に入りました。オイドンは3番手を追走していましたが、ゴール線上でピタッと止まり、ホクショウダイヤとニシキエーカンが急追。立て直したオイドンとホクショウダイヤが同タイムとなった結果、軍配はホクショウダイヤに上がりました。これで7、5、8番人気での決着となり、3連単は163万6860円。ばんえい史上2番目の高額配当となりました。

およそ2年8カ月ぶりとなる重賞制覇を飾ったトレジャーハンター。ゴール前で詰めの甘さを見せましたが、レースぶりそのものは堂々としたものでした。今後も馬場や重量次第でタイトルを積み重ねる可能性も十分です。

◆ 第38回ばんえいオークス（3歳牝馬オープン）

2番人気のナナノチカラが優勝。2月の黒ユリ賞以来となる重賞2勝目を挙げ、3歳女王の座に就きました。

馬場水分は2.9%でスタート。ナナノチカラがギャロップで軽快に先行。これをセイコークイン、コウシュハクイーンが追走し、中間点付近から追走の2頭が前へ。縦長の展開で推移し、第2障害を迎えました。

全馬がたどり着く前にコウシュハクイーンが登坂を開始。セイコークインも即座に動き、さらにアグリナデシコ、クインフェスタも早めに動きます。その間にコウシュハクイーンは障害を突破。以下セイコークイン、クインフェスタが続き、遅れて仕掛けたナナノチカラが4番手でクリアしました。

先頭は軽快に歩き続けるコウシュハクイーン。しかしナナノチカラが爆発的な末脚で差を詰めにかかります。残り20メートルで1馬身差に詰め寄り、そして残り10メートルで先頭へ。そのまま力強く脚を伸ばすと、食い下がる2頭を逆に置き去りにし、先頭で荷物を運び切りました。残り5メートルでセイコークインがコウシュハクイーンを捕らえて2着。積極的に運んだコウシュハクイーンは惜しくも3着に敗れました。

ナナノチカラは黒ユリ賞制覇後、9月まで実戦から離れていましたが、その後【4・0・1・1】と抜群の安定感を見せて今回の一戦を迎えました。各馬が早めのレースを展開する中、焦らずじっくり構えた鈴木恵介騎手の好騎乗もありましたが、それで勝ち切ったのもナナノチカラの実力があってこそ。今後も切れを生かせる馬場や展開の際には、台頭する場面がありそうです。

2着はセイコークイン。ナナノチカラの切れに屈した格好ですが、早めの競馬を展開しながらこれに食い下がって伸びた内容は、むしろ地力の高さを示すもの。その安定感あるレース運びは、今後もこの馬の武器となりそうです。

3着のコウシュハクイーンはしまいに踏ん張りきれなかったものの、すばらしいレースを展開してくれました。これだけ走れば、いくらでもチャンスは回ってきそう。引き続き注目です。

※ レース情報の内容につきましては、ばんえい競馬情報局より抜粋しています。